

# ボナンタゴン

アピカホールから  
あなたに

Vol.70

2013.10月-12月



アピカ児童合唱団・混声 Còro アピカ1stコンサート  
(平成25年3月3日)

音楽の話・輪・和・Wa  
音楽の力・音楽療法

うかわ先生の  
おんがく談義

十一月三十日開催

第2回  
アピカのちびっこ  
クリスマス

オペレッタとは…

第124回  
ワイーンわが夢のまち  
二月二日開催

西脇市立音楽ホール

**Apika**  
アピカホール

## ウィーンわが夢のまち

～ウィーン・オペレッタの名曲を集めて～

歌と踊りを気軽に楽しめるオペレッタ。オペレッタとは・・・

オペレッタと聞けば、ヨハン・シュトラウスの『こうもり』とか、あるいはフランツ・レハールの『メリー・ウイドウ』を思い浮かべる方が多いことでしょう。そう、この2曲は、オペレッタの中でも飛びぬけた傑作で、いわば、オペレッタの代名詞のような作品です。

ヨハン・シュトラウスやレハールの周辺には、数多くの群小作曲家たちがいて、たくさんのおペレッタを書いています。本場ヨーロッパでは、オペレッタ専用のオペラ劇場があったり（例えば、ウィーンフォルクスオーパーのような）、一定の期間オペレッタを上演するようなオペラ劇場があって、これら群小作曲家たちの作品に接する機会もわりと持つことができます。

しかしながら、我が国では、オペラと比べてオペレッタに対する馴染みは薄く、たまに、海外からの引越し公演で『こうもり』や『メリー・ウイドウ』が上演される以外には、全曲の上演にはほとんど接する機会が持てないのが実情です。それ以外では、2月2日に、ここアピカホールで行われる〈ウィーンわが夢のまち〉のように、色々なオペレッタの中から、さわりの部分だけを抜粋して上演するという形が一般的です。

オペレッタとは、小型のオペラという意味で、オペラと比べると大衆的で娯楽的な要素

が強く、気軽に笑える内容を持っています。オペレッタは、1850年代にフランスで始まり、『天国と地獄』で有名なオッフェンバック(1819～1880)が〈オペレッタの祖〉といわれています。そのオッフェンバックの勧めでヨハン・シュトラウスⅡ世(1825～1899)が、『こうもり』や『ジプシー男爵』といった傑作を書き始めることとなり、ウィーン・オペレッタの〈黄金の時代〉が到来します。そののち20世紀初頭になると、レハール(1870～1948)が『メリー・ウイドウ』や『ほほえみの国』といった傑作を書くに及んで、ウィーン・オペレッタのもう一つのピーク〈白銀の時代〉が築かれることとなります。オペレッタはそののち、ミュージカルの成立にも大きな影響を与えました。

オペレッタは、そのほとんどがハッピー・エンドで終わりますが、しかし、そこに流れる音楽には、人生のやるせなさ、はかなさが色濃く漂うのがふつうです。アツという間に過ぎ去ってしまう人生の中での、東の間の喜び、楽しさが、深い哀愁を伴って歌い出されていくのです。オペレッタが、すたれることなく今日まで上演され続けている一因は、東の間の夢というはかなさへの哀愁が、聴く人の心を強く打つ点にあるのではないかと思えてなりません。

編集委員 鶴川 真

「ウィーンわが夢のまち」で、わかりやすい解説とピアノを演奏される

## 藤原治道さんに「ウィーンとオペレッタ」について聞きました。

ボナンタゴン編集委員 依藤 孝  
ボナンタゴン編集委員 鶴川 真  
ボナンタゴン編集委員 古谷みどり  
ボナンタゴン編集委員 岡本 芳雄

### Q. オペレッタとオペラとの違いについて

**A.** オペレッタ、とは何かと問われても一言で説明しきれない。いろいろな見方がある。オペラは小難しい。内容とか筋書なんかはわりあいと文学的で、音楽も堅苦しい。観客に芸術性を求めているから、慣れていない人は聴きづらく難しい感じがする。

オペレッタは筋書きが身近におこっている内容が多い。喜怒哀楽がより解り易く書かれている。また、より楽しめるようにオペレッタには三枚目的な役者がけこういる。その人たちが楽しいことをやって、聴衆を舞台に引き込んでいく。音楽もわりあい重くない、悲しい音楽もさりと聴ける。

オペラは楽しい曲でも、全体に重厚感がある。オペラブッフアの上品な楽しさは別として、喜びとか悲しみとか表現するが、重い感じがする。オペラ『椿姫』の主役のヴィオレッタは肺病で死ぬが、それまでは恋に生きようと喜びに満ちたアリアが書かれているがやはりどこか悲しい。オペラはわりあい悲しく終わる。主役が死ぬ、死に別れすとか、メロドラマ的なものが多い。オペレッタはハッピーエンドが多い。ミュージカルも同様。問題が全部解決して、ああよかったで終わる。

オペレッタは歌が歌えることと、芝居ができること、おしゃべりができること。この3



つがある。さらに役によっては踊れることも。一方、オペラでは踊れなくてよい、踊るところがほとんどない。しゃべるところもほとんどない。太っていてもやれる。オーケストラの音量を超えてくれるような声を持っている人が多い。声が一番だ。素晴らしい歌を歌えたら、他のことは大目にみられる。

オペレッタでも歌が下手ではダメだが、他のことで観客に気に入られることはある。ちょっと下手でも動きがいいと、結構楽しめる。多少譜面通りに歌わなくても表現力でカバーするとか。だけどオペラではちゃんと書かれた譜面を歌うのが通常。オペレッタの場合、高い音を少し下げたり、また反対にもっと上げたり、またはカットしたりと、オペラの場合より割合自由さがある。

Q. 若いころからオペレッタの世界に魅力を感じられたわけ

A. 楽しいということだ。もちろんオペラも好き。違う緊張感があるから。声の出し方の真剣さがオペレッタとは、ちょっと違う。オペレッタは楽しむ。とって、歌の下手くそな人は、聴いておれない。ウィーンでも、がっかりする舞台が結構多い。博多で「こうもり」を全曲日本語と伴奏をピアノでやったが、けっこう面白かった。せりふも日本語だから筋書きをおっていった。それでないとオペレッタは楽しみづらい。

オペラは、話の筋書きをわかっている人が、オペラに行って声のすばらしさを聴こうとする。このアリアはこういうところに注目、みんな知っているわけで、イタリア語が分からなくても歌の良さが評価する。ところが、オペレッタは、言葉がしゃべれないと、内容と一緒についていけない。もちろん観客は大体筋書きを知っているのだが、演出家によって違う言葉に変えたりすることもあるので、言葉がわからないと楽しめない。最初、わたしはドイツ語でしゃべっているのを観ていても分からなかった。今はドイツ語でしゃべっていても一応ついていける。あとはドイツ語がすべてわからなくても楽しめたのは、ダンスが出てきたり、バレエが出てきたりと、会場を楽しませるシーンがあるので、それが楽しみの助けとなる。

オペレッタの表面は楽しいが、そこにある音楽はメランコリックと言うか。たとえようなないものがある。心にからまるように響いてくる。オペレッタが廃れずに今日まで続いている。多分それに魅かされているのだと思う。

Q. 今回のオペレッタの楽しみ方

A. ウィーンといったら、やっぱり音楽かな。あのようなところで住んでいると、音楽はそんなに難しいところからでてきてないという感覚がある。ホイリゲというワインを飲みに行くところがある。ウィーンの森のふもとに。ウィーン独特の場所。そこ行くと心がなんとなくほぐれて、そこではオペレッタに歌われる曲がよく歌われ、演奏される。オペレッタ専用の劇場もあって、フォルクスオーパーというウィーンっ子たちに親しまれている劇場では、年に20ぐらいのオペレッタをやっている。オペレッタの合間にもオペラやミュージカルが入ったりバレエが入ったりして、毎晩何かやっている。

今回の題名は、ウィーンの有名な曲で、『ウィーンわが夢のまち』という曲があるが、そのタイトルをとって『ウィーンわが夢のまち』とした。なんとなくメランコリック。そして、副題として「ウィーン・オペレッタの名曲を集めて」にしようと思っている。『ウィーンわが夢のまち』、それを最後の曲にしたいと考えている。ウィーンの街の雰囲気がかもしだすというか、ウィーンへの憧れや哀愁などの香りが感じられるような音楽会にしたいと思っている。



(Y.O.)

11月30日(土)

# アピカのちょっと早いクリスマス

～アピカ児童合唱団・混声 Còro アピカ 2ndコンサート～

指揮 南出 信一  
(ライツ室内管弦楽団代表)

## 『アピカ児童合唱団・混声 Còro アピカ 第2回定期演奏会によせて!』

第2回目に取り組み演目は「クリスマスの曲」になりました。

キリストの誕生を祝うクリスマス、キリスト教の信者達が歌い祝うのが本来の姿ですが、昔から宗教の枠を超えて世界中の人々の年末の大きなイベントにその姿を変えています。

特に我が国では、多くの人が教会で結婚式を挙げ、七五三は神社に出向き、お盆はお寺に墓参り、お葬式は仏式、でも2月にはバレンタイン、そして最近ではハロウインの仮装パーティー・・・。生活の中ではキリスト教の行事と我が国固有の行事が混在しています。さすがに古代から「八百万の神(やおよろずのかみ)」を信仰する、おおらかな日本人の懐の深さのなせる技でしょう。

さて、宗教曲、賛美歌、ポップス系のクリスマスソング、ゴスペル、祈りの歌等様々な形態のクリスマスの名曲があります。

去年同様、児童合唱団も参加して、聞きなじんでいるクリスマスの名曲を我々ライツ室内管弦楽団との共演で、皆様にご披露し、楽しんで頂くために、合唱団一同この夏の酷暑をものともせず切磋琢磨しております。

しかしながら何ぶん、メンバーの平均年齢が少し高め混声合唱団であります。心と体の反応のズレが若干あり、微量ですが人生の積み上げによる心地よい「頑固」さも加味され、恍惚と焦りと開き直りの精神の中、懸命に音楽と向き合っております。

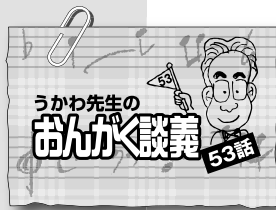
その複雑怪奇な精神状態が底知れぬエネルギーとなり、本番に向けてのパワーを生み出しているようです。

百合花先生のご指導のもと、地道な質の良い練習は必ずご来場の皆様に心地よい時間を与える事が出来ると確信しています。

児童合唱団も前回の公演から約半年が経過し、一回り大きくなった子供達の成長に驚かされました。あどけなさや可愛さにしっかりと感も加わり、素敵な歌声を皆様に披露してくれるものと期待し楽しみにもしています。

地道な活動ですが、歌声を通して西脇の街に素敵なクリスマスソングが響き渡るよう、我々ライツ室内管弦楽団も合唱団と共に、コンサートに向け邁進しております。

そんなアピカの児童合唱団と混声合唱団のコンサートに是非多くの方のご来場をお待ちしております。



## 没後40年を迎えたユニークな大指揮者クレンペラー(第1回)

今年、2013年、フルトヴェングラーやワルターなどと並んで、20世紀のドイツを代表する大指揮者の一人であったオットー・クレンペラー(1885~1973)が没後40年の記念の年を迎えました。

クレンペラーと同世代——ということは、19世紀の後半に生を受けた人たちですが——には、人間離れをした、まるで怪物のような指揮者たちがひしめきあっていました。思いつくままに挙げてみるだけでも、フルトヴェングラー(ドイツ 1886~1954)、トスカニーニ(イタリア 1867~1957)、ワルター(ドイツ 1876~1962)、メンゲルベルク(オランダ1871~1951)、クナッパースブッシュ(ドイツ 1888~1965)、シューリヒト(ドイツ 1880~1967)、モントゥー(フランス 1875~1964)、ベーム(オーストリア 1894~1981) などなど枚挙に暇がありません。

これらの巨人たちの名前を眺めていると、タメ息がでできます。なぜなら、現代では、このような巨人はほとんど存在しなくなってしまったからです。音楽と限らず、それ以外の分野にも共通して見られる現象ですが、大物がこの世から姿を消してしまいました。これらの巨人たちには、ある共通点があります。それは、彼らの中に、穏やかな顔つきをしている人が一人もないという点です。そろって、目付きが異常に鋭く、その目の中には、狂気が宿っていることが見てとれます。穏やかな人柄であったといわれているワルターでさえも、その目からは異様な光が放たれてい

るのです。彼らの写真を見ていると、音楽評論家の許光俊さんがラトル(ベルリン・フィル芸術監督・首席指揮者)を批判している文中に見られる次の言葉が自然と思ひ浮かんできます。

「…結局、芸術とは、優等生の手には負えないものなのだ。狂気と異常が必要なのだ。…」(註1)

話がいささか脇道にそれそうになってしまいました。クレンペラーに戻りましょう。

クレンペラーは、数奇な人生をたどりました。数々の肉体的な試練が、これでもかこれでもかとばかりに、次々にクレンペラーを襲います。小石忠男著『世界の名指揮者』のクレンペラーの項の記事(註2)に従って列挙すれば、次のようになります。

第2次大戦中、ナチスに追われてアメリカに渡ったクレンペラーは、1939年脳腫瘍が発見され、大手術でかろうじて一命をとりとめたものの、手術後に半身不随となってしまいます。

アメリカでは、ほとんど忘れ去られてしまったクレンペラーは、第2次大戦後、ヨーロッパに戻ります。ところが、カナダの空港で、タラップから転落し、大腿骨を痛めて立つことができなくなってしまいます。1954年と翌年に2度の大手術を受けますが、3ヶ月後にははやくも指揮台に現れ、しかも、『ドン・ジョバンニ』の演奏中、突然、奇蹟のようにすっと立ち上がります。クレンペラーはそれ以来、再び立つことができるようになった

のです。しかし、1959年には、またも災厄に襲われます。パイプをくわえたままベッドで居眠りをし、シーツに火が燃え移って生命にかかわるほどの大やけどをし、再起が危ぶまれますが、9ヶ月で回復します。さらには、1963年には脳卒中の発作を起こしますが、クレンペラーはこれも克服し、その後1973年までの10年間も指揮活動を続けたのでした。

何度も何度も再起不能の状態に陥りながら、その都度、不死鳥のように蘇ってくる様子は、常識では考えられないことで、まさに超人の業としかいいようがありません。

1951年、クレンペラーは、イギリスのフィルハーモニア管弦楽団に客演しますが、これが、クレンペラーの人生と芸術にとっての一大転機となります。彼の演奏のスタイルは、イギリス人の趣味にぴったり合っていたため、大好評を得ることとなり、1954年には、同オーケストラの首席常任指揮者として迎えられます。また、イギリスの老舗レコード・メーカーEMIの大作プロデューサーであったウォルター・レグがクレンペラーの偉大な才能に惚れ込み、1952年にクレンペラーと録音の契約を結び、そののち1973年に彼が死ぬまでの約20年間にわたって、クレンペラーとフィルハーモニア管弦楽団とのコンビによる録

音が大量に行われることになったのでした。

もうすぐ70歳を迎えようという頃になって、クレンペラーはようやく自分の意のままに操れるオーケストラを手に入れることができ、また、自分の得意のレパートリーを録音して後世に残すことができるようになったのでした。度重なる肉体の障害によって、クレンペラーの演奏家人生は、本当であればとっくの昔に幕が下りていたはずなのですが、運命とは不思議なもので、それまで不遇だったクレンペラーに対して、己の芸術を集大成する時間が人生の最後の20年間に与えられたのでした。まさに、大器晩成を地で行く人生であったといえるでしょう。

そして、最後の20年間にEMIで大量に行われた貴重な録音が、没後40年を記念して、今年、一斉に再発売され、耳にできるようになったのです。これらの演奏について、詳しくは、次回にお話しすることにいたしましょう。

註(1) 許光俊『オレのクラシック』青弓社 16ページ

(2) 小石忠男『世界の名指揮者』音楽之友社 66~84ページ

元同志社大学文学部講師(音楽学) 鷺川 真

## 西脇ロイヤルホテル

 Daiwa House Group®

兵庫県西脇市西脇 991 番地 〒677-0015  
TEL.0795-23-2000 FAX.0795-23-8604

詳しくはオフィシャルホームページで ▶▶ <http://www.nishiwaki-royalhotel.jp>

### レストラン・ラフィネ

【朝食】 7:00~10:00  
【ランチ】 11:30~14:30 (L.O.14:00)  
【ディナー】 17:30~21:30 (L.O.21:00)  
【喫茶】 10:00~21:30 (L.O.21:00)

### 和食処・織乃里

【昼】 11:30~15:00 (L.O.13:30)  
【夜】 17:30~(L.O.21:00)



## 8月4日(日) 「ヴァイオリン・ワークショップ」

弦楽アンサンブル教室の一環として、初めて、初心者を対象とした「ヴァイオリン・ワークショップ」を開催しました。

「弦楽アンサンブル教室」の藤井允人先生、西山枝里先生と「幼稚園お出かけコンサート」でお馴染みの久保ふみ先生を指導者に、小学生20名が初めてヴァイオリンの演奏にチャレンジしました。

最後は、昨年6月から教室で練習を重ねている「アピカ・ジュニア・ストリングス」も加わり、弦楽アンサンブルを体験しました。

今後も、音楽に親しむ機会の提供を目的として、触れることの少ない弦楽器を体験し、新たな魅力を発見する場を提供していきます。



## 8月24日(土) 「第17回 リトルピアニストの大っきなコンサート」

アピカホールのスタインウェイピアノを広く皆さんに弾いていただきたいとの思いから始まったこのコンサート。

アピカホールの歴史と重なり、今年で第17回目の開催となりました。

“演奏家の卵”たちが、これからも音楽に興味を持ち続けることを期待し、また、自分の演奏だけでなく、他の出演者の演奏を聴くマナーを身につけることも大きな狙いとして開催をしています。今年も多くのリトルピアニストが出演しました。



午前の部



午後の部

総合建設業 一級建築士事務所  
国土交通大臣認定鋼構造物製作工場  
あんしん住宅瑕疵保険届出事業者



WAIKI CONSTRUCTION CO.,LTD.



☎677-0018 西脇市富田町36  
電話 0795-22-5651(代)

# KOBE STYLE

Kitchen & Reform

[www.kobe-style.co.jp](http://www.kobe-style.co.jp)

〒658-0032  
神戸市東灘区向洋町中6-9 TEL:078-857-8424  
神戸ファッションマート10F FAX:078-857-8425

## 8月31日(土)

### 第5回

## 「弘中孝と子どもによるピアノ・デュオ・コンサート」



アピカホール運営のコンセプトの一つである「次代を担う人づくり」事業として、3年毎に開催してきましたが、今回で第5回目の開催となりました。

今年も4月に選考会を開催し、無事通過した13名の子どもたちが、弘中孝先生とのピアノ・アンサンブルに臨みました。

一流のピアニストとの連弾を体験し、音楽の楽しさのみならず、音楽に対する姿勢等を肌で感じる大変貴重な機会となりました。



## 8月25日(日)

## 「第42回 西脇市子ども芸術祭 子どもステージ」

(於 西脇市民会館)

昨年6月に設置しました「アピカ児童合唱団」と弦楽アンサンブル教室「アピカ・ジュニア・ストリングス」が、初めてアピカホールから場所を移して演奏をしました。

今年で第42回目の開催となる「西脇市子ども芸術祭」、西脇市民会館の舞台上で演奏し、共に貴重な体験をしました。



アピカ児童合唱団



弦楽アンサンブル教室「アピカ・ジュニア・ストリングス」

議な経験をしたことがありますか？

美しい音に魅了され、心震わせ、思わず涙したことや、躍動感溢れるリズムについていっしん身体が踊りだしたりしたことはありませんか？懐かしい歌を聞くと、無意識のうち口ずさんでいたり、その当時の事がどんどん甦ってきたりしたことがありますませんか？

私は、そのような不思議な音楽の力を利用して行う「音楽療法士」とい

う仕事に携わっています。音楽療法は、「音楽の持つ生理的、心理的、社会的働きを利用し、心身の障害の軽減回復、機能の維持改善、生活の質の向上、問題となる行動の変容、などの目的のもとに、意図的、計画的に行われる治療プロセスをいう」と日本音楽療法学会では定義されています。

目的のために、どのような方法で音楽を使うかを考え、実行していくのが音楽療法士の仕事となります。鑑賞、BGM等受動的に利用したり、歌唱、楽器の演奏活動、音楽に合わせて身体を動かしたり、作詞作曲を行う能動的な方法などがあります。

運動のペースメーカーとしてや、運動範囲の拡張、調節力の訓練や、筋肉緊張の緩和。コミュニケーション活動への動機づけや集中力の向上、不安の軽減や情緒の安定が効果として期待されます。

また、何よりも言葉を使わない表現であることが、大きな音楽の力です。ポンと叩く太鼓の音がその人の気持を表し、表現ができたという自己肯定感を味わうことが出来ます。音楽療法を行っている時間は、同じ音楽の中にいる平等な関係と共通の経験を味わうことが出来ます。そして、音楽の力の奇跡とも出逢える場でもあります。

(西脇市在住 音楽療法士)

### 編集後記

地元の西脇工業高校がこの夏甲子園に初出場しました。一試合ごとに勝利をたたえて、各校の校歌がテレビから流れてきました。現代ほい歌謡や、なんだか演歌、軍歌の曲調のものもあります。勝ち残った学校の選手達が声を張り上げ、身体を反らして、涙を流しながら校歌を歌っている姿は、何回見ても感動的です。山、川、空、景色など、それぞれの地域の魅力が、校

歌から伝わってきます。故郷を思う人たちの気持ちを大切に、子どもが明るく、たくましく、育つように祈っているようです。一度、母校や近隣の校歌を聴いてみたくなりました。このような思いで聴くと、また違った良さが発見できそうな気がしました。

(Green)

## 音楽の話・輪・利・Wa

### 音楽の力・音楽療法

東 寛子

皆さんは、音楽を通して不思議な経験をしたことがありますか？

## 西脇市岡之山美術館

おんちよう

### 「重力の恩寵—篠田守男」展

—浮遊するかたちのエッセンス—

これ、なんだろう！君ならどう感じる？

2013年10月26日(土)  
～2014年2月16日(日)

本展は、現代彫刻の地平に新しい可能性を切り開いた篠田が90年代以降に発表した代表作と、当館の建築空間を活かした参加体験型のユニークな新作などを一堂に紹介して、不思議さと遊び心に満ちあふれた篠田守男の創造の軌跡をたどります。



タイトル 「TC 7801 渓谷建築」2009

開館時間 午前10時～午後5時(入館4時30分まで)  
入館料 大人310円(260円)・高・大学生210円(160円)  
小・中学生110円(80円)(20名以上団体割引料金)  
※ココロカード可  
休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・祝日の翌日  
年末年始 12/29(日)～1/3(金)

## ●アトリエ個展シリーズ

### 「感じるカタチ展」

- VOL.1 ●クボタケシ 展 (彫刻)  
10/29(火)～11/17(日)
- VOL.2 ●北川 太郎 展 (彫刻)  
11/19(火)～12/8(日)
- VOL.3 ●野村 直城 展 (陶芸)  
12/10(火)～28(土)
- VOL.4 ●梶 滋 展 (彫刻)  
1/5(日)～26(日)
- VOL.5 ●由城 順造 展 (造形)  
1/28(火)～2/16(日)

※アトリエシリーズは無料

## ●美術館講座

- 11月10日(日) 午後1:30～3:30  
「人物クロッキーを学ぶ」参加者募集(要予約)

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/okanoyama-museum/>  
ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。  
ブログ「美術館日記」も、訪問ください。

## 西脇市民会館

TEL.0795-22-5715

休館日 火曜日(祝日の場合は翌日)

2013年8月公開作品が早くも西脇市民会館で上映決定!

モスクワ国際映画祭特別作品賞受賞

## 映画「少年H」上映会

とき 12月15日(日) 2回上映

①10:00～ ②14:00～

ところ 市民会館 大ホール **全席自由**

入場料 一律 800円 (当日1,200円)

チケット発売開始 10月19日(土)～

※ホームページにも掲載していますので是非ご覧ください。

<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/shiminkaikan/> E-mail: shiminkaikan@ever.ocn.ne.jp

アピカホール

# 催しガイド

10月～1月

休館日：毎週水曜日(祝日の場合翌日)12/29～1/3

月/日(曜日)	催物内容	時間	入場料等	主催・問合せ	特集記事
10/25(金)	みなと銀行 みなと会 播丹支部 秋季支部会	15:00～	関係者	みなと銀行 三木支店 ☎0794-82-0980	
10/27(日)	西山枝里 第2回 ヴァイオリン教室演奏会	13:30～	無料	西山枝里 ☎0795-22-3141	
11/9(土)	西脇市民合唱団 第64回 定期演奏会	18:30～	500円	西脇市民合唱団 細田重康 ☎0795-22-4567	
11/17(日)	第2回 ベルフェスタ in アピカ	13:00～	500円	ティンカーベル 代表 熊原幹恵 ☎0795-23-1671	
11/30(土)	アピカのちょっと早いクリスマス ～アピカ児童合唱団・混声 Cbro アピカ2ndコンサート～	15:30～	一般 1,500円 高校生以下 1,000円	アピカホール ☎0795-23-9000	P5
12/8(日)	第10回 チャリティーminiライブ おとほけサンタ Xmas	13:00～	1,000円 (当日券1,200円)	「元氣、笑顔、愛がいっぱい 夢企画」 ☎0795-22-4726	
12/15(日)	くすのき リトルピアノコンサート	13:00～	関係者	楠 宮子 ☎0795-48-9332	
12/15(日)	モスクワ国際映画祭特別作品賞受賞 映画「少年H」上映会	会場：西脇市民会館 ①10:00～ ②14:00～	全席自由 一律 800円 (当日 1,200円)	市民企画委員会 <small>ゼロ</small> 「0」 西脇市民会館 ☎0795-22-5715	P11
12/23(月・祝)	第19回 クリスマスコンサート	12:00～	関係者	服部文子 ☎0795-42-1530	
1/18(土)	第7回 コーラスの集い	13:30～	関係者	垣内順一 ☎0790-42-2948	
1/25(土)	第16回 「アピカ・アンサンブルコンサート」	13:30～ (予定)	無料	アピカホール ☎0795-23-9000	

- ★主催者の都合により変更になる場合があります。内容についてのご質問は、各主催者までお問い合わせください。
- ★アピカホール主催の有料コンサートにご来場のお客様に限り、アピカ地下駐車場の3時間無料駐車サービス券をお渡しします。

■編集：ポナンタゴン編集委員会  
 ■発行：西脇市立音楽ホール「アピカホール」  
 ポナンタゴン：こんにちは  
 (エスペラント語)

〒677-0015 兵庫県西脇市西脇991  
 TEL(0795)23-9000 FAX(0795)23-9031  
<http://www.nishiwaki-cs.or.jp/apikahall/>  
 E-mail: apikahall@ever.ocn.ne.jp

このガイドは2013年9月1日現在の資料を元に編集しており、内容は変更される場合があります。無断での転載を禁じます。